

2011年度医療安全分科会に参加して

医療法人社団碧水会長谷川病院 田巻宏之

2011年10月29日(土)、30日(日)に、東京表参道にある日本看護協会において、本分科会が開催されました。

今回のテーマは、「注目すべき医療安全対策—評価と効果」ということで、医療安全対策の具体例や評価方法などの紹介を含め、非常に参考となる講演や事例が目白押しで、充実した二日間でした。

どのお話も当院に取り入れたいものばかりでしたが、中でも2日目の最後のプログラムで、佐野厚生農業協同組合連合会佐野厚生総合病院院長 奥澤 星二郎先生の「事故防止に効果を発揮するヒヤリ・ハット劇場」はインパクトが強烈でした。

奥澤先生のお話はとてもシンプルで分かりやすく、ユーモアもたっぷり、医療安全への取り組みがこんなに明るくポジティブに感じたのは初めての経験です。

もとより、病院職員が、本当に一丸となって医療安全に取り組んでいる姿は印象的であり、これが病院組織の理想の姿だな、と感動を覚えました。

そして10年間続けているヒヤリ・ハット劇場は、職種の垣根をすべて取り除き、医療安全を中心としたチーム医療を構築しており、長年蓄積された様々な「コツ」の集大成は「熟成」という言葉をイメージさせられました。

継続は力なり、という言葉もありますが、継続するための「コツ」というものも教えていただいたような気がします。

終始佐野厚生総合病院のお話になってしまいましたが、今回の分科会に参加し、医療の質と安全を中心とした病院作りの重要さを強く感じました。と同時に、医療安全の水準を向上させていくためにいかに「組織全体を巻き込み」、いかに「明るくポジティブに」、いかに「継続させていくか」ということの重要性を学ばせていただきました。

最後になりますが、今回の分科会の企画や運営をしていただいたスタッフの皆様、貴重なお話をいただいた講師陣の皆様、そしていつも貴重な機会を与えてくださっている坂本すが先生に感謝を申し上げます。



会場風景

シンポジウムでは「私たちの医療貢献～災害支援をとおして～」というテーマで、東日本大震災の被災地において活動された5施設より救援・救護活動の事例発表がありました。

また、特別講演は国際医療福祉大学大学院 高橋 泰教授をお招きして、「今後の高齢化の進行とこれからの医療と介護の需要推移」という演題で、医療介護の現状と今後の展望を、先生が構築された「二次医療圏データベース」を使用し、医療圏単位で比較検討した結果についてご講演いただきました。

多数のご参加をいただき、本学術集會を盛會のうちに無事終了することができました。ご指導とご協力いただきました関係各位へ感謝申し上げます、開催の報告といたします。

第9回石川支部学術集會

当番世話人：

医療法人社団和楽仁芳珠記念病院院長 上田 博

2011年11月6日(日)、石川ハイテク交流センターにおいて、第9回石川支部学術集會を開催しました。当日は、あいにくの悪天候にもかかわらず、108名の方に参加いただきました。



会場風景

2011年は、自然災害の恐ろしさと適切な対応の重要性を痛感させられる出来事が多く起こりました。また、経済や社会保障などに対する漠然とした不安感が、より現実的な危機感へと変わった年でもありました。

そこで、第9回のテーマは「トリの目マネジメントで医療のみらいを創る」としました。社会や経済、地域の変化を中長期に渡って見通す力のシンボルとして「トリの目」を、その変化に対応する力として本学会の要諦である「マネジメント」を掲げました。

基調講演に、北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科客員教授の近藤修司先生に、「MOT(技術経営)改革で病院と医療人が元気になる」話をしていただきました。一般演題では、医療の質の向上から地域包括ケアに関するモデル事業まで、多彩な内容の5題を発表していただきました。最後に、特別講演として、「クリティカルパスのみ

開催報告

支部学術集會

第10回山口支部学術集會

学術集會会長:済生会山口総合病院病院長 湧田幸雄

2011年11月5日(土)、山口市の山口県総合保健会館において第10回山口支部学術集會を開催し、260名の参加がありました。本学術集會のテーマを「支援による医療貢献」とし、一般演題(口演)12題、(ポスター)10題、クリティカルパス展示11題の他、シンポジウムおよび特別講演を行いました。